

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400081
法人名	株式会社 元禄
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ひねもす
所在地	西予市宇和町卯之町5丁目1-4
自己評価作成日	平成27年9月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年9月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

居心地のいい場所で過ごし、日々を有意義に過ごして頂けるように努めています。
---------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者は、「オープンな事業所作り」に向けて、この一年間は、事業所に「訪れる人を増やす」ことに力を入れて取り組んでいる。道の駅等に出かけた際、利用者の知り合いに会ったら、「一度遊びに来てくださいね」と声をかけている。</p> <p>ご主人の入居に伴い、一人暮らしになった奥様を2日に1回送迎して会えるように支援している事例がある。さらに、昼食を準備して一緒に食事できるよう支援している。</p> <p>この一年間、おやつを手作りして、利用者メニューを決める機会を作ったり、一緒に作る等して利用者が主体で行うような場面作りに取り組んだ（内容美化しすぎて？）。パズルに興味がある利用者には、絵柄ややり方等の希望を聞きながらパズルを楽しむ時間を作った。現在は、「これは私の仕事」「今日はここまでやる」等、自主性が見られるようになり、仕上がった時には、とてもさわやかな顔をされるようだ。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者の</li> <li>利用者の2/3くらいの</li> <li>利用者の1/3くらいの</li> <li>ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>毎日ある</li> <li>数日に1回程度ある</li> <li>たまにある</li> <li>ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての家族と</li> <li>家族の2/3くらいと</li> <li>家族の1/3くらいと</li> <li>ほとんどできていない</li> </ol>

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 認知症対応型共同生活介護

(ユニット名) グループホーム ひねもす

記入者(管理者)

氏名 山下 淳子

評価完了日

27年 9月 6日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 個々の利用者に合った介護の提供という観点でスタッフ一 同、統一した介護につながるよう努めています。またスタッフそ れぞれが、理念の実践につながるよう、日々の業務を行って いる。 (外部評価) 事業所開設時には、「利用者様の意向・意思を尊重した介 護を行います」「価値観や生活習慣に基づいたサービスを支 援します」「地域との連携に努めます」と職員理念をつくっ ている。	職員が一丸となってケアに取り組めるように、法人代表者や 管理者は、日々の中で理念を職員に語り、けん引していつて ほしい。又、理念を地域の方やご家族にも示して、ともに利 用者を支えていけるような関係を作っていてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 買い物やドライブの際、利用者の知り合いに声を掛けられ たり、施設に訪ねて来て頂いたりして、少しずつ交流ができて いる。 (外部評価) 管理者は、「オープンな事業所作り」に向けて、この一年間 は、事業所に「訪れる人を増やす」ことに力を入れて取り組 んでいる。道の駅等に出かけた際、利用者の知り合いに 会ったら、「一度遊びに来てくださいね」等と声をかけてい る。	事業所が所在する地区では、お祭り等が少なくなっている現 状にあり、管理者は今後、事業所でお茶会等を催し、地域 の方が集うような楽しみごとの機会を作りたいと話していた。今 後さらに、利用者地域とのつながり作りに工夫を重ねて いてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 利用者様の家族の方には、状態をお話する時に認知症に ついて、お話している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2か月に1回のペースで開催している。各月ごとの行事や勉強会、入所・退所等の報告をし、構成員の方々から色々と意見を述べていただいている。 会議の記録は、介護の向上に反映できるよう、玄関入り口に掲示している。</p> <p>(外部評価) 会議には地域の代表として、元併設デイサービス職員が参加しており、老人会や婦人会の存在を教えてくれたり、事業所が閉鎖的にならないように同業者との交流等、取組みの工夫についてアイデアを出してくれている。利用者やご家族の参加もあるが、今後は、発言しやすいような会議の場作りやすすめ方にも工夫されてほしい。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 担当者の方には、運営推進会議に出席していただき、様々な相談をし、助言をしていただいている。</p> <p>(外部評価) 介護相談員訪問時には、利用者とお話したり、他事業所の取組みを教えてくれたりする。運営推進会議には、市の担当者や地域包括支援センターの担当者が参加しており、事業所の取組みについてアドバイスや意見がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関の施錠も含め、身体拘束はしていない。 見守り・付き添いという形を徹底することで、利用者様には、施設内を自由に活動していただいている。 声かけの仕方等不十分な職員も見受けられるが、勉強会等を通じて浸透するよう心掛けてゆく。</p> <p>(外部評価) 利用者がベッドからずり落ちるようなケースがあったが、職員で話し合いベッドまわりにマットを敷いたり、見守りを強化して拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は、外からは自由に入れるが、中からは、高い位置に設置しているボタンを職員が押して開けるようになっている。時々、玄関の戸をドンドンとたたく利用者の様子が見られるようだが、職員が声をかけて、一緒に併設施設とつながる建物内をぐるっと廻ると、ご本人は気が紛れるようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する資料の掲示やミーティング・勉強会でも取り上げて行なっている。言葉がけについては、不十分な職員もあり、互いが注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) まだ勉強会等の機会が持ててない、今後研修に参加したり勉強会を行ったりして、職員が学べる機会を設けていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に管理者が、契約内容や重要項目について、細かい説明を行ない、家族のかたに充分理解していただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話連絡時等に家族の意見を聞くようにしている。要望・意見について職員相互の連絡を取り、管理者への報告も行なっている。また、意見箱を設置し、家族や来訪者が意見を述べやすい体制を取っている。 (外部評価) ご家族に向け発行する事業所便りにて、利用者の様子や職員の異動の報告、事業所行事への案内をしている。クリスマスやお花見には2名程度の参加があった。	ご家族は利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーでもあり、理解や協力を得られるように取り組みをすすめてほしい。一緒に勉強したり、活動するような機会作りに工夫してほしい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	意見や問題点があれば、必要時には管理者・代表者への報告・上申を行なっている。月1回業務カンファレンスとミーティングを実施している。
			(外部評価)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	代表者もフロアの状況を見る機会が多く、職員の意見等も良く反映できる形ができています。
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	各職員の業務内容は把握している、研修案内等の情報は提供している。
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	代表者は他の施設・事業者の交流を積極的に行い、サービスの質の向上に努めている。
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	事前の調査や施設見学等の機会に、聴き取りを行なっている。また、入所当初には良く本人と話す機会を設け、希望や不安点等を聴き取るようにしている。
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	本人同様家族の方からも良く話を聞いている。管理者は契約時等に、細かい意見や、利用者についての情報収集に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	まず入所当初に必要な介護計画を立案し、概ね二週間の期間で本人に合ったサービス内容を見極めるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	尊敬・尊重の姿勢で接し、常に相手の立場に立った行動ができるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	利用者本人の事柄、施設運営に関すること等、家族の意見は積極的に参考にするよう心掛けている。 安心して外出・外泊ができるよう協力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価)	馴染みの人(友人・知人・親戚)の方との交流が持てるよう支援している。定期的買い物行事・ドライブ等を行ない、馴染の場所を目にすることが出来るようにしている。	
			(外部評価)	ご主人の入居に伴い、一人暮らしになった奥様を2日に1回送迎して会えるように支援している事例がある。さらに、昼食を準備して一緒に食事できるよう支援している。携帯電話を持つ利用者で、知り合い等に電話したい時には、職員が掛けて取り次ぎ、支援している。ご家族を招き、利用者個別に誕生会を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日、集団での体操やレクリエーション等を行ない、利用者同士が関わり合えるよう援助している。また、職員が間に入り、友好的な関係が保てるよう手助けしているし座席の配置にも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了にも、家族に状況等を聞き相談等に乗っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人からの要望や自宅での生活習慣等を家族からお聞きして、なるべく自宅で過ごされていたように生活して頂けるように努めている。  (外部評価) 利用者一人ひとり顔写真を中心に貼り、暮らしの希望等の情報を集めるアセスメント様式を作成して、思いや意向の把握に努めている。自宅にある「仏様を拝みたい」と希望する利用者もあるが、事業所のみでの支援では難しいようなケースもあるようだ。	利用者のこれまでのことや現在の暮らしへの希望、今後のことについて情報を集めて、利用者個々がその人らしい暮らしを続けられるような支援につなげていってほしい。ご家族と一緒に取り組みをすすめてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の記憶に強く残っているものは、日頃の会話の中から拾い、出来る限り職員間で共有できるようカンファレンス等で話し合うようにしている、入所当初時の本人・家族からの聴き取りを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者個々の状態に合わせて出来る事・出来ない事を把握して、出来る事の維持に努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			毎月、ケアカンファレンスにおいて各利用者のモニタリングを行ない、介護計画に反映している。評価結果は、それぞれ家族に通知し、意見を求めている。	
			(外部評価)	
			利用者の健康状態等を踏まえて介護計画を作成し、毎月職員で話し合い支援状況を確認し、3ヶ月ごとに見直しをしている。ご家族のケアへの要望は電話等でお聞きしているが、「任せます」と言われるようなことが多いようだ。	利用者がこれからも慣れ親しんだ地域の中で暮らし続けられるように、親しい人や場等の資源を活かした介護計画作成に工夫してはどうだろうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別には、介護記録、経過観察記録、業務日誌等があり介護計画に沿って毎日の状態を記録している。また、申し送りノート等の活用も行なっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			職員による買い物の代行、一般デイで行われるボランティア団体によるレクリエーション等がある。今後も様々なニーズに対応していきたい。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			この夏プランタンに野菜や草花等を栽培して、利用者様と育てていく様子を見ながら色々野菜作り等を話していただきました。今後は地域の人達との交流も行っていきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医による月1回の往診があり、利用者の健康管理に努めている。必要時には、家族に協力していただいて他科受診をしている。	
			(外部評価) 9月から医療連携体制を整備しており、事業所には看護職員を配置している。日々看護職員が利用者の健康状態を管理し、受診支援や医師とのやりとりをしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医とは、日頃から、連絡を密に行い、入院時にも経過報告等こまめに情報交換をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 往診、日頃から連絡を密にできる体制をとっており、入院時にも経過報告等こまめに行い情報交換をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 管理者から、看取りはしていない事を伝え、家族・本人の要望があれば、経口摂取が困難になり医療が必要になるまでグループホームでの支援を行い、医療面が必要になったら病院に搬送を行う事を説明している。	
			(外部評価) これまでに看取り支援の事例はあるが、その際、職員の負担感もあったため、現在は、「看取りはしない」ことになっている。利用者の中には「病院はいや。最期までここで」と希望する方もある。事業所に看護職員が配置されたことにより、今後は職員で勉強会を行いながら、不安等の軽減に取り組むまいと考えていた。介護度重度でベッド上で長時間過ごす利用者もあり、お話することがお好きなこともあり、職員は頻繁に話しかけるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティングやケアカンファレンスなどで各利用者様の緊急時対応について話合っている、緊急搬送はスムーズに出来ている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 8月に避難場所や職員の役割を決めて総合避難訓練を行いました。今後は地域とのつながりづくりに努め、協力体制が築けるようにしていくことが、課題である。	
			(外部評価) 年2回、夜間の火災を想定して、併設施設合同と事業所独自で避難訓練を行っている。事業所は平屋で多方向に出入り口があり、避難経路が確保されており、火災時には火元より遠い方向に避難することを職員で申し合わせている。地域との協力体制作りについては今後の取り組みとなっており、まずは区長に会ってお話をしたいと考えていた。さらに、事業所で地域にどのような協力ができるか話し合い、地域に示しながら話し合ってみてほしい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の人格の尊重を基本において介護に臨んでいるが、声の強弱や微妙なニュアンス等、言葉かけの点においてまだ不十分などところがあり、職員同士で声掛け合って注意し合っている。	
			(外部評価) この一年間、おやつを手作りして、利用者メニューを決める機会を作っている。パズルに興味がある利用者には、絵柄ややり方等の希望を聞きながらパズルを楽しむ時間を作った。現在は、「これは私の仕事」「今日はここまでやる」等、自主性が見られるようになり、仕上がった時には、とてもさわやかな顔をされるようだ。前回の外部評価実施後、利用者の呼び方について目標達成計画に挙げて改善し、職員間で徹底できるよう取り組んだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) その日の、おやつ・飲み物は何がよいかと問いかけたり外出する時等、どこに行きたいかを聞くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日課的な意味では職員主体になりがちな部分もあるが、口腔ケアのタイミング、散歩や昼寝の時間等、利用者の希望に沿って援助できるよう努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時、入浴時等に、可能な利用者については本人に服を選んでいただいている。選べない方については、季節感、本人らしさが出るように職員が工夫している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生会等の行事の際には、本人から希望をとり、好みに合わせた食事を提供している。 職員と一緒に食事することで、コミュニケーションをとっている。片づけも一緒に行なっている。	
			(外部評価) 法人の厨房でつくった食事が配膳されて事業所に届くようになっている。職員は、それぞれが用意したお弁当を利用者と同じ席で食べていた。刺身等、利用者のお好きなメニューがあれば、楽しみに待てるよう、メニューを伝えるようにしている。月1回、「調理レクの日」を設け、事業所で利用者のリクエストに応じて煮物やバラ寿司等、昼食を手作りして職員も一緒に食べている。又、誕生日の日もご本人のリクエストに応じて手作りしている。昼食前には、みなで口腔体操を行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食時の食事量のチェック、10時・おやつ時を合わせたトータル水分摂取量のチェック・記録をし観察をしている。お茶をあまり飲まれない習慣の方については、その他の飲み物を提供したりしている。糖分を控えるように注意も払っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず全員に口腔ケアの声かけを行なっている。介助の必要な方は介助し、自分でできる方についても、確認をしている。義歯の方は、週2回のポリデント消毒を行なっている。歯ブラシやコップの消毒も毎日している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>個人個人に合わせた声かけ・誘導・介助を行ない、排泄の失敗を減らすよう援助している。状態に合わせて夜間ポータブルトイレ2名使用してる</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居間もない利用者の中には、ご自宅での習慣もあり、場所間違いにより放尿するケースがあるが、トイレでの排泄を目標に、まずは居室内にポータブルトイレを用意して、貼り紙や誘導して排泄することを支援している。又、小さなホワイトボードに「もうすぐごはんやけんトイレ行こ」と書いておき、時間をみてご本人に見せ誘導したり、自然排便を促すために食後トイレで座る時間を作って支援しているようなケースがある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>業務日誌に記入し、便秘の方が分かるようにしている。慢性気味の方については、医師と相談の上、内服でのコントロールを行なっている。十分な水分摂取を心掛け、また適度な運動ができるよう援助している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>曜日は決めず、毎日入浴できる体制で行なっている 入浴中は本人のペースに合わせてゆっくりと入っていただけるように、入浴剤等を使用したりして配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、利用者の体調等も踏まえて、個々に「お風呂に入りますか？」と希望を聞いてから支援している。そのような支援の取り組みを重ねることにより、利用者の中には、自ら希望を言うようになった方もあるようだ。夕ご飯後や就寝前の入浴希望にも応じて支援している。重度の利用者は併設デイサービスの機械浴を使用して入浴を支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>殆どの方は日中はフロアで過ごされているが、昼食後等自室で休みたい場合には、ご自由に休憩時間をとっている。就寝時、介助の必要な方については、睡眠時間等を考慮して、適切な時間に居室へ誘導し、休んでいただくようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  薬の作用や副作用等、個人毎の一覧表にして、各職員が理解しやすいようにしている。症状の変化等みられた場合には、主治医に連絡し、内服の検討等を相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  個人個人に合った役割や楽しみごとを選び、長続きが出来るように支援している。たとえばパズルをされ完成させる事に充実感を持たれている、利用者様に職員の手作りパズルを提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  可能な限りは職員が付き添いで屋外を歩き、新鮮な空気が味わえるよう支援している。買い物等で最低月1回は外出できるようにしている。  (外部評価)  月1回外出行事を計画しており、8月には、運営推進会議の地域メンバーの方のブドウ園で希望者がブドウ狩りを楽しんだ。車いすでも楽しめるよう配慮してくださったようだ。事業所敷地内は砂利が敷き詰められており、車いすの方はちょっと外に出て過ごすことには難しさもあるようで、車で外出するようだが、頻度は少ない。時には利用者の希望であめを買いに個別に出かけるようなこともあるが、利用者の外出希望は少ないようだ。	今後さらに、地域の中に積極的に出かけて行き、利用者の暮らしを拓いていけるよう取り組んでほしい。利用者の馴染みの場所や思い出の場所、又、新たにゆっくり過ごせる場所の開拓等もすすめてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  現在、お金を支払える方はいらしゃらない、買い物に行っても職員管理で支払っている。 日常的には、施設内でのお金の所持は行っていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  家族から電話があった場合には、取り次ぎをして話をしていたりできるようにしている。電話機は、利用者が話のしやすい位置に設置している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) フロアは常に清潔感が保てるよう、清掃・整頓には気を配っている。食べこぼし等の汚れは速やかに取り除くよう心掛けている。エアコンには、効きすぎて利用者に不快感を与えたり体調不良を起こしたりしないように注意を払っている。時折季節ごとの花や壁画で利用者様に季節感が分かるように努めている。</p> <p>(外部評価) 敬老の日に併設施設で敬老会が開催されるため、事業所の出し物を利用者と相談して「スズを鳴らしながら歌う」ことに決め、居間で日々練習している。居間から中庭が見える造りであるが、日差しが差し込むこともあり、ブラインドを閉めて照明を点けている。壁にはお月見の絵を飾っていた。廊下等、各所に椅子を配置して、利用者がちよつと休める場所を作っている。調査訪問時には、手すりを伝って洗面台やトイレまで行き来する利用者の様子が見られた。以前キュウリ栽培していた方に栽培の仕方等を教えてもらいながら、今夏は中庭でキュウリを育てた。収穫して浅漬けを作り食事に添えると、利用者は「あっさりしとってええな」と喜ばれたようだ。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 集団での体操やレクリエーション時以外の時間は、それぞれが自席で過ごしたり、テレビを観たり、付き添いして散歩をしたり、と思ひ思いご自由に過ごせるように、見守り支援を行っている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) お家族にご本人が自宅で使い慣れた、タンスや布団等身の回りの物を持って来て頂くように、お話している。椅子とかテレビを持ってきてる利用者もおられる。</p> <p>(外部評価) 重度の利用者は、みなが集まる居間に近い居室を利用しており、入口の戸は開けてあった。ベッドの位置は、廊下からすべてが見えないよう配慮していた。居間でカラオケを行う時には、カラオケがあまり好きでない方は居室で過ごされる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下には手摺りがあり、杖歩行者や手引きが必要な方等が安全に歩行することができるように、また歩行の練習にもなるように活用している。</p>	